

生産者に直撃インタビュー！

〈春待つ梅畑・松沢秋男さんの巻〉

角田市豊室、果樹団地の中にある、松沢さんの梅畑におじゃました。

松沢さんの梅は、あぐりっとなて「八神農産加工所の梅干し」として販売中だ。梅干し栽培歴20年の松沢さんは、白加賀、越の梅、藤吾郎（とうごろう）、小梅、あんずなどの数品種で、400本近い梅を育てている。

1月は、最も忙しい剪定作業のシーズンだ。一つの枝に梅の実がなりすぎれば、栄養が分散して実は必然的に小さくなる。

そこで思い切って枝を切り込むという。「3年後にどんな花芽をつけるか、ちゃんとイメージが頭の中にあるんだ」という松沢さんの言葉は、長い時間と手間暇をかけて作物を生み出す、農の本質だ。剪定された梅の樹形は、息をのむほど美しい。太陽に向けて、手を広げたように見えるのだ。日の光をたっぷり吸収して、大粒でおいしい梅がたわわに実ることを予感さ



せてくれる。それにしても、風が吹き抜ける真冬の梅畑は、寒さが骨身にしみる。「作業のしんどさも、良い梅だとほめられれば最高にうれしいな」と、顔をほころばせる松沢さんに、梅づくりに対する誇りが見えた。梅の花が咲き始める2月も、もうすぐだ。芳香を放つ梅の花の先に実を結ぶ、松沢さんの梅を、どうぞお楽しみに！

取材：どじょう